

北海道熊研究会」 Hokkaido Bear Research Association 創刊 2013年1月25日
<北海道熊研究会 会報> 第112号 2022年6月2日

北海道熊研究会事務局 北海道野生動物研究所内 (Tel. 011-892-1057)
代表 門崎 允昭
事務局長 Peter Nichols ピーターニコルス氏
幹事長 藤田 弘志 氏

ご意見ご連絡は本紙送信 email ではなく、下記の email へお願い致します

E-mail: kadosaki@pop21.odn.ne.jp

会報の1～110号以前の号は Website に「北海道野生動物研究所」と入力し、ご覧下さい。

「北海道熊研究会」の Facebook の編集は横山敬子氏が当たります
Facebook] <https://www.facebook.com/HokkaidoBearResearch> Association

「北海道熊研究会」 Hokkaido Bear Research Association の活動目的

熊の実像について調査研究し、熊による人畜及びその他経済的被害を予防しつつ、人と熊が棲み分けた状態で共存を図り、狩猟以外では熊を殺さない社会の形成を図るための提言と啓発活動を行う。この考えの根底は、この大地は総ての生き物の共有物であり、生物間での食物連鎖の宿命と疾病原因生物以外については、この地球上に生を受けたものは生有る限りお互いの存在を容認しようと言う生物倫理(生物の一員として人が為すべき正しき道)に基づく理念による。

<日本熊森協会が北海道の熊対策に犬を使うと言う事に付いての門崎の見解＝犬を使うなど無知の愚策である>

(理由)

先ず、北海道で熊と道民が、共生・共存（人的経済的被害を予防しつつ、熊を極力殺さない事であるが；

北海道での人的経済的被害は4項あり、その対策は、確立しており、犬に頼らずとも、総べて為し得る！！

<北海道熊研究会 会報>

第107 2021年12月20日で、詳述して居る：Websiteに「北海道野生動物研究所」と入力し、ご覧下さい。

それなのに、なぜ犬を持ち出す必要があるのか！

あえて、勘ぐれば

熊対策と称して、犬を飼育し、活動する連中の、飯の種を

作り出す為の方便としか、思えない

これは、道が1989年32年前から行って来た熊対策の調査の、調査費の総てが、調査会社（北大の熊研のOB連中が設立した：エンビジョン）の懐に現在もそうだが。今度は新規に犬を扱う連中が、熊を飯の種に利用しようとの画策の一環としか、私には言い様が無い。（了）